

## VI 学生の就職活動の支援

### 1 就職支援制度

早期化する採用活動に備え、低学年から就職に対する意識付けと基礎学力の向上に取り組み、内定の早期実現と実質就職率 100%を目指して、就職支援室と各ゼミが連携しながら就職に取り組んでいる。

1～4年次までの就職支援制度は、図表6-1の通りである。つまり、1年次では、前期ゼミIで数学、後期ゼミIで国語を中心とした一般常識に取り組む。また、必修科目「経済・経営の現場を知る」では業界研究を行っている。「キャンパスライフ入門」「長岡・新潟を知る」では就職活動の動機付けを。また、ボランティア活動のために、講義としての「ボランティア論」とあわせて、実体験をととした「ボランティア体験」を行っている。

2年次では、文章力養成を主テーマとするゼミIIにおいて、自分史と履歴書の書き方を練習している。また、就職関連科目として「起業家塾」、「ビジネスマナー」を開講している。

3年次では、企画・提案力形成をメインにしたゼミでの調査研究に加えて、ゼミ教員による学生に対する個別指導・支援を行っている。また、就職関連科目として「キャリア開発」、「時事問題」を開講している。また、特殊講義「就職講座」(図表6-2)を開講し、就職指導プロパーの時間として設定し、様々な指導・支援(セミナー、ガイダンス等)を行っている。3年次の秋からエントリー、企業説明会等本格的就職活動が始まる。

4年次は、ゼミにおいて卒業提案・卒業論文作成に入るとともに、他方で本格的就職活動が展開される。前期は、3年後期から引き続き就職活動が展開されるため、ゼミ欠席が増え、教員は綱渡りのゼミ運営を強いられる。

平成20年度も引き続き、外部カウンセラーによる「就職カウンセリング」を実施し、4年生の未内定者および3年生を対象にした就職相談やカウンセリングを実施した。就職意欲の向上に大いに役に立った。

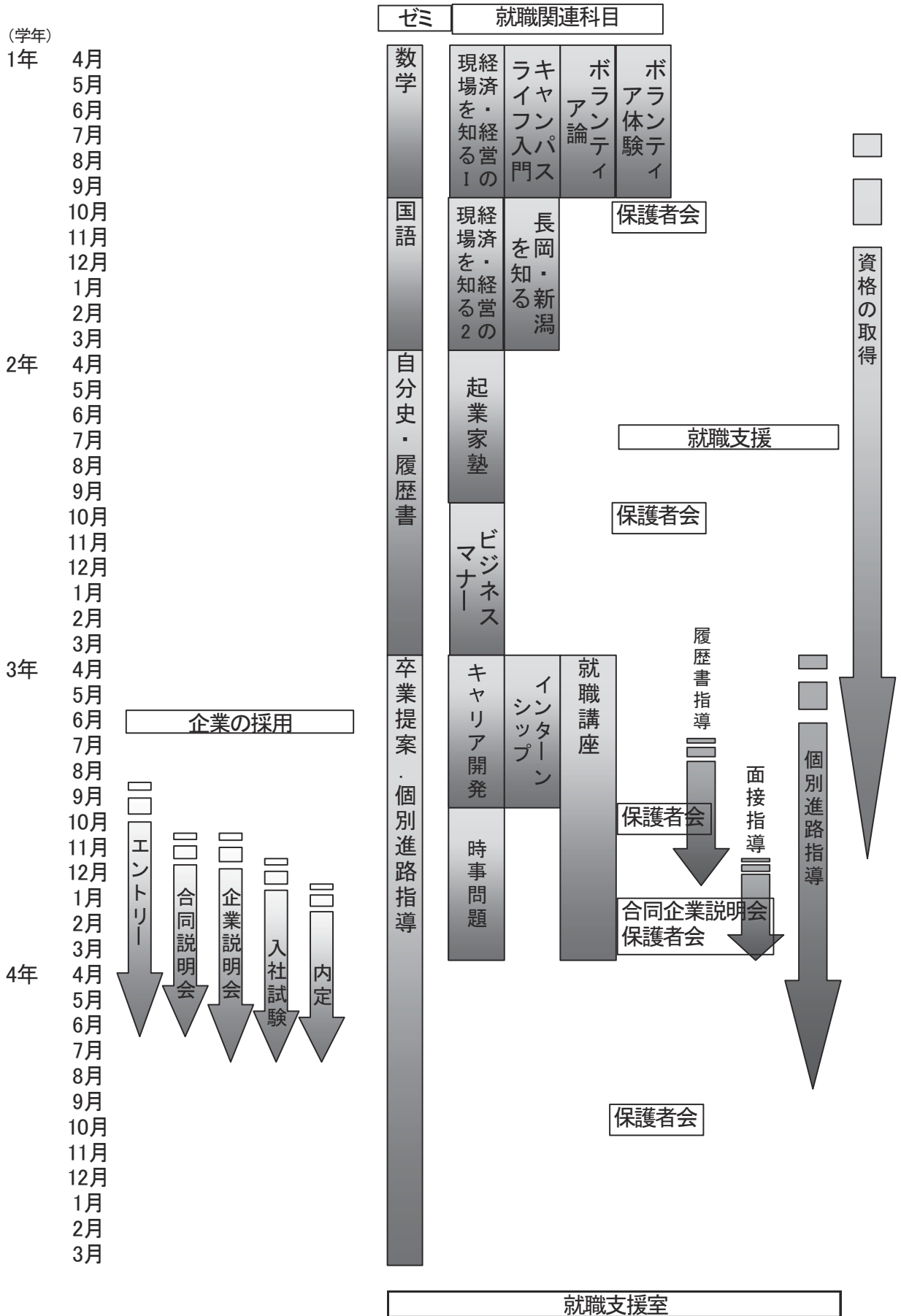
### 2 就職実績

5期生までの就職実績は、就職率95～96%(就職内定者数/就職希望者数)を維持し、他大学と比べても良好な成績を収めてきたと言える。実質就職率(就職者数/(卒業者数-進学希望者数-帰国予定者数))は、80～88%であり、ニートやフリーターを出さないという姿勢から就職活動不活動者の減少に努めている。

主な就職先と進学先は、次の通りである。しかし、未内定者が出ており、実質就職率100%には至っていない。

- ・主な就職先—日本精機株式会社 株式会社コメリ アークランドサカモト株式会社 株式会社大光銀行 株式会社アークベル 越後ながおか農業協同組合 越後さんとう農業協同組合 株式会社ハードオフコーポレーション 日本ユニシス株式会社 越後製菓株式会社 セコム上信越株式会社 クリナップ株式会社 株式会社PLANT ほか(順不同)
- ・主な進学先—筑波大学大学院システム情報工学研究科 名古屋大学大学院経済学研究科 新潟大学大学院現代社会文化研究科 横浜国立大学大学院国際社会科学研究所 横浜市立大学大学院国際総合科学研究科 福島大学大学院経済学研究科 和歌山大学大学院 上越教育大学大学院学校教育研究科 ほか(順不同)

図表6-1 就職支援制度

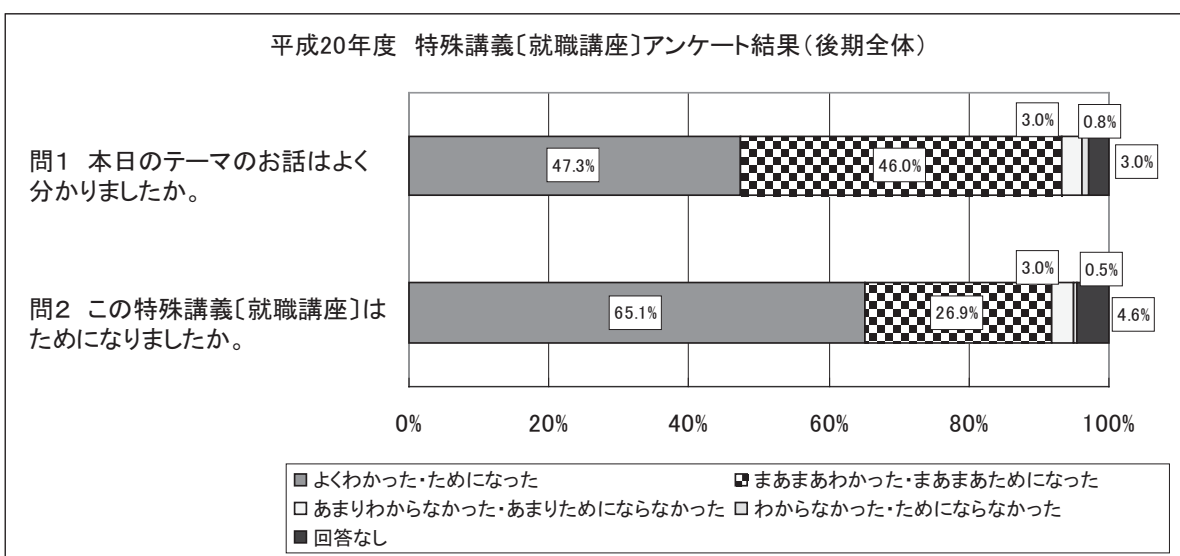
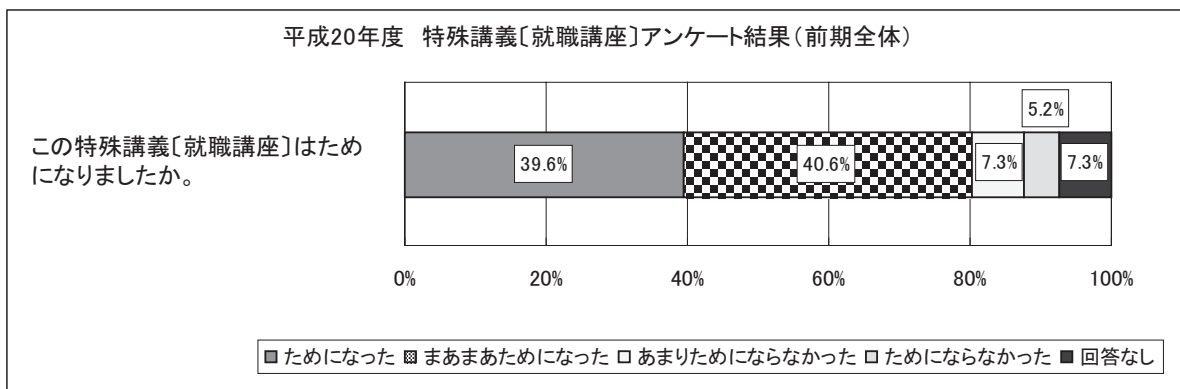


図表6-2 特殊講義「就職講座」(3年次・通年科目)の実施概要

	月 日	講座の概要	講 師
1	4月15日 (火)	就職活動の進め方1	准教授 吉川 宏之
2	4月22日 (火)	正社員とフリーター (一般常識小テスト)	准教授 吉川 宏之
3・4	5月13日 (火) 5月20日 (火)	業種と職種1・2 (一般常識小テスト)	准教授 吉川 宏之
5・6	5月27日 (火) 6月3日 (火)	就職支援室1 (就職支援室の役割) 就職支援室見学 (Aグループ) 就職支援室2 (4年生の体験談) 就職支援室見学 (Bグループ)	准教授 吉川 宏之
7	6月10日 (火)	ハローワーク、ジョブカフェについて (外部講師)	ジョブカフェながおか 長岡事業推進室長 瀧澤竹男 スーパーバイザー 伊東克始
8・9	6月17日 (火) 6月24日 (火)	インターネットの利用1・2 (a)就職支援サイト登録 (外部講師) (b)メールの使い方、ネットの活用方法 就職支援室見学 (Cグループ、Dグループ)	(株)毎日コミュニケーションズ 新潟営業所就職情報事業本部 キャリアサポート課 課長 菊地晶
10	7月1日 (火)	入社試験の種類 (外部講師) (一般常識小テスト)	エン・ジャパン(株) メディア開発本部 プロモーション部第1グループ 首都圏エリアチーム 丸田哲幹
11・12	7月8日 (火) 7月15日 (火)	SPI試験 (受検・解説)	准教授 吉川 宏之
13	7月16日 (水)	一般職業適性検査 (受検)	准教授 吉川 宏之
14	7月29日 (火)	YG性格検査 (受検)	准教授 吉川 宏之

	月 日	講座の概要	講 師
1	9月30日 (火)	就職活動の進め方	産業カウンセラー・教育カウンセラー 橋本 康正 講師
2	10月7日 (火)	履歴書の作成のポイント	産業カウンセラー・教育カウンセラー 橋本 康正 講師
3	10月14日 (火)	履歴書の作成1	産業カウンセラー・教育カウンセラー 橋本 康正 講師
4	10月21日 (火)	履歴書の作成2	産業カウンセラー・教育カウンセラー 橋本 康正 講師
5	10月28日 (火)	エントリーシートの書き方	産業カウンセラー・教育カウンセラー 橋本 康正 講師
6	11月4日 (火)	エントリーシートの作成法	産業カウンセラー・教育カウンセラー 橋本 康正 講師
7	11月11日 (火)	面接講習会1	産業カウンセラー・教育カウンセラー 橋本 康正 講師
8	11月18日 (火)	面接講習会2 【グループ面接】	産業カウンセラー・教育カウンセラー 橋本 康正 講師
9	11月25日 (火)	企業研究会1	就職支援室
10	12月2日 (火)	企業研究会2	就職支援室
11	12月9日 (火)	履歴書の作成3	産業カウンセラー・教育カウンセラー 橋本 康正 講師
12	12月16日 (火)	合同企業説明会の参加と準備 【4年生の体験談】	准教授 吉川 宏之 本学4年生 星野 弘晃・吉田 真実
13	1月6日 (火)	入社試験直前の準備状況の確認	准教授 吉川 宏之
14	1月27日 (火)	試験 (レポート) 【履歴書の提出】	准教授 吉川 宏之
15	2月3日 (火)	まとめ	准教授 吉川 宏之

図表 6-3 特殊講義「就職講座」(3年次・通年科目)のアンケート結果



### 3 内定時期の要因分析

採用活動の早期化とともに、内定時期の早期化が進んでいるが、4年次の後期にずれこむケースがかなりある。6月以降は企業からの求人も少なくなっていくため、夏休み前の内定獲得が重要である。

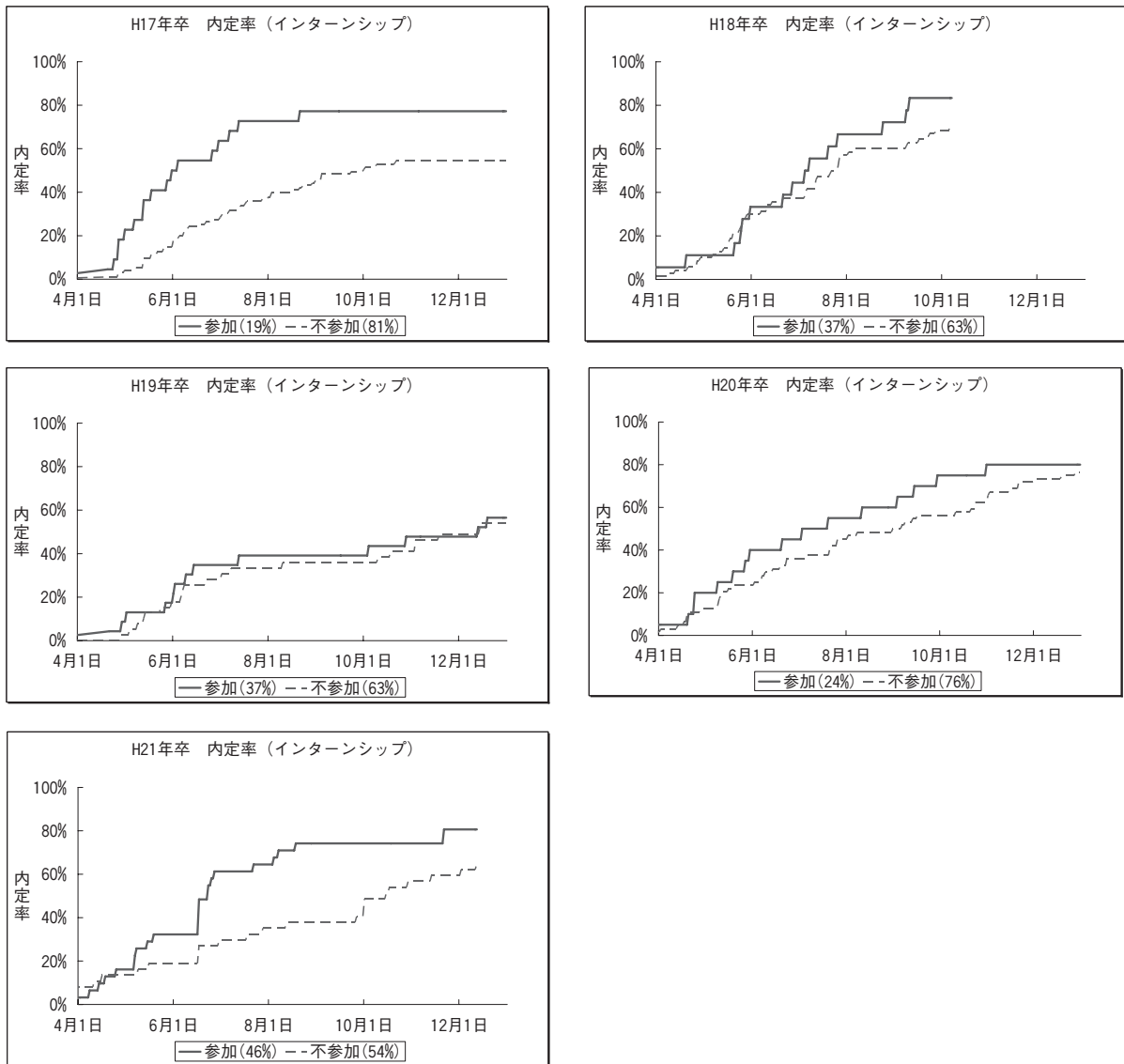
そこで、過去の事例を利用して、学業成績以外の就職に優位な要因を探るため、インターンシップと課外活動(クラブ、サークル、学友会等)の参加の有無による就職内定時期の比較を行ってみた。結果は次のとおりである。これら活動に参加した学生の早期内定傾向をはっきりと読み取ることができる。

#### (1) インターンシップと内定時期

毎年、3年次の希望者を対象に、夏季休暇を利用して2週間程度のインターンシップを実施している。実際に企業の活動を体験することで就職に対する意識を養い、進路選択と勉学意欲向上に役立っている。

図表6-4から明らかなように、インターンシップに参加した学生は、受講しなかった学生と比較すると早期に内定を得ており、就職活動においてインターンシップの体験は有効であることがわかる。もともと就職に対する意識強い学生が受講している影響もあるが、インターンシップの体験により養われたコミュニケーション能力や責任感などの良い効果が表れているようである。平成18年卒業者、平成19年卒業者では差が小さかったが、平成21年卒業者では、はっきりと違いが現れている。インターンシップ制度が定着し、就職活動に有効なことをアピールし続けた結果、インターンシップ受講者の割合が増え、就職に対する意識がより高まったものと思われる。

図表6-4 インターンシップ参加と内定率の関係

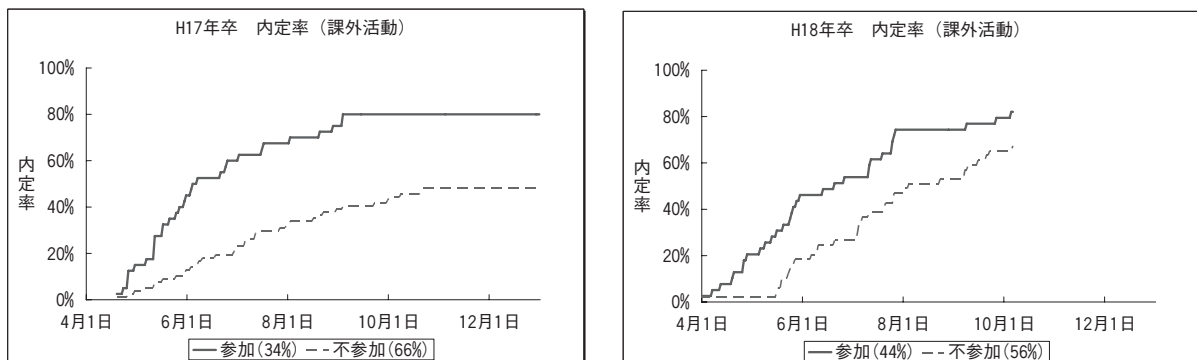


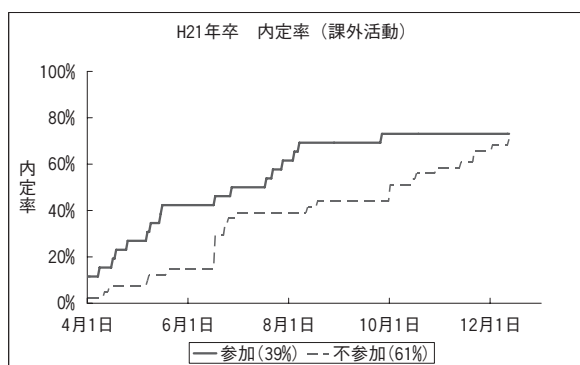
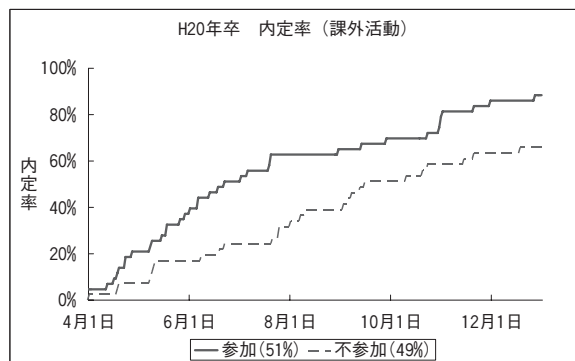
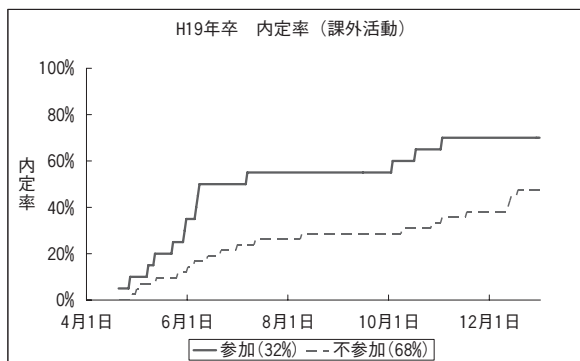
(2) クラブ・サークル・学友会などの課外活動と内定時期

図表6-5から明らかなように、課外活動に参加した学生は、学生同士の就職情報のやり取りが頻繁に行われるため、就職活動を早い時期から始める傾向があり、参加しなかった学生に比べて早い時期に内定を受けている。また、課外活動により養われるコミュニケーション能力や協調性などの社会人基礎力等各種能力が企業に評価されている点も挙げられる。

企業の採用活動が年々早期になっていることがグラフから読み取れる。

図表6-5 課外活動参加と内定率の関係





#### 4 今後の課題

以上から、当面の就職支援活動に関して解決すべき課題は、採用活動早期化への対応するためのキャリア形成、早期内定獲得の指導・支援、就職率100%達成のための対策の3つであると言える。

第1の点については、低学年からの就職意識形成とキャリア形成をよりシステム化された形で構築すること。ゼミでの指導－キャリア科目－専門科目（資格取得）－就職関連行事等の有機的に、学年進行型の体系的システムとして構築する必要がある。

第2の点については、過去の分析から明らかなように、まず、サークル等課外活動やインターンシップへの参加者拡大を追求する必要がある。同時に、体験・参加型授業などによる社会人基礎力の形成を進めるとともに、きめ細かいキャリアカウンセリングの充実を図る必要がある。

第3の点については、上記2点の進み具合によるが、何より重要なのは、学生が主体性を持ち目標を達成する力＝人間力・社会人基礎力の形成である。現代GPプログラムで開始したゼミ中心の目標マネジメント方式による人間力・社会人基礎力形成の成果が問われることになる。